

11. 「日本史探究」の教科書をよむ(4)―近世②

2025.12.19. 大橋 幸泰

はじめに

第一学習社版「日本史探究」の教科書における叙述を材料に、現在の歴史学との関係を読み解く
→前回に引き続き本日は、近世を対象

1. 近世の身分と属性

【注目史料】

・池田光政の家臣教諭 pp.130 / 「人民は天からの預かりもの」だから、家臣は主君を助けて領民が安心して暮らせる政治を行わなければならない

→「乱の忠」から「無事の忠」へ／武士に期待されることが変化

* 近世の身分とは何か？

近世身分としての「士農工商」／かつては権力によって編成された上下関係の秩序、という理解

→しかし、近年の研究では政治起源論は否定されている

a.身分的周縁論による成果

* 近世では社会的な分業が進展 pp.132 / 生業・職業により形成される利害集団へ注目／それぞれの利益や権利を、治者によって保障された集団が身分、という理解

→実際、「士農工商」に収まりきれない多様な身分が存在

b. 「士農工商」の語義

* 儒教文明圏社会における人民を指す／東アジア共通の語義／上下関係は含意されていない pp.132

→「士」とは「天子や諸侯に仕える家臣」／近世日本では下級武士に当てはめる／上級武士は該当しない

→「士農工商」の語の説明／特に「農工商」の人々から「士」への対抗意識が含意／横並び意識の醸成

人と人との区分を考える際の留意点

a. 現実の近世身分では尊卑上下の関係により規律化

* 三層構造／頂点身分・平民身分・賤民身分 pp.132

→三層の間に尊卑上下があるだけでなく、それぞれの層のなかにも尊卑上下の関係が存在

b. 一人の人物、一つの集団は、単一の身分・属性によって完結していない

* たとえば百姓／生業が農業であっても、商品作物のための加工をすれば工業に、行商すれば商業にも関わる／檀那寺のほか、鎮守の神祇信仰や民間信仰、寺社参詣、流行神など、複数の宗教活動に関係 pp.129

→属性論／人々の営為の意味を複数の身分・属性を念頭に考える方法

2. 近世の民衆運動と政治常識

【注目史料】

・「東山桜莊子」 pp.106 / 佐倉惣五郎をモデルとした歌舞伎、1850 代初演／この背景に治者批判が存在

→江戸時代を通じて、百姓一揆が展開／特に 18C 後以降、広域化するとともに件数も増加 pp.146

* 百姓たちは何を求めて一揆を起こしたのか？

佐倉惣五郎のストーリー／17C 中、佐倉藩の苛政に対して將軍徳川家綱へ直訴／代表越訴型一揆の典型
*ただし、確かな一次史料はない／口伝の伝承をもとに、18C 中以降、ストーリーが成文化「地藏堂通夜物語」／19C 中、歌舞伎の演目へ
→代表越訴型一揆は史実としては確認できない／17C 中後、小農自立とともに近世的村落共同体の成立／年貢増徴など、生活を脅かす領主の政策に対する異議申し立て／それが百姓一揆 pp.146
*百姓の正当性意識／「仁政」の回復／領主は慈悲深い「明君」「名君」という政治常識 pp.130・146
→領主の役割は領民が安心して暮らせる政治を行うこと、家臣(武士)はそれを実現するために補佐すること
*百姓一揆は反体制運動ではない／むしろ、幕藩体制を下支えする民衆意識の表出

3. 近世民衆文化の展開

【注目史料】

・出版文化の隆盛、地方文人の登場、村と都市の暮らし pp.154-155 / 民衆文化が大きく展開
→江戸時代は、被治者が主体者となる文化が隆盛した時代
*民衆世界の拡大は何を意味するのか？

17C 前中、商業出版の登場／当初は仏教書の刊行が目的／宗派ごとに僧侶の学問所(檀林)が成立／中世的な口伝・秘伝に代え、文献を通じて教義を伝授
*背景に、地域寺院の増加により、僧侶養成の必要性
→加えて、兵農分離に代表される治者と被治者の分離／治者の意向を文書によって被治者に伝達する仕組みにより、村社会には必ず識字能力を有する者が必要とされる pp.134
→村役人の不正防止、商品流通の興隆などにより、一般の百姓にも識字能力の欲求が高揚 pp.150
*被治者全体の識字能力の向上にともない、17C後以降、出版文化の確立／「古典」の成立／書物知による主体形成の時代へ
→18C 後-19C 前、被治者にとって書物は娯楽であるとともに政治批判の手段へ pp.152-153 / しばしば幕府による弾圧 pp.148

4. 留意すべき点

村でも都市でも、近世社会では被治者による自律的な秩序形成が拡大／郡中議定などが典型
→治者もそれを無視しては、秩序維持が困難
*豪農が土分を与えられて、地域秩序の維持を請け負う／ただし、下層百姓との利害不一致が進行、場合によっては打ちこわしの対象／世直し一揆

おわりに

近世は民間社会が拡大した時代／それを基盤に近代の秩序形成へ

【参考文献】

後藤雅知 他編『身分的周縁と近世社会』全9巻(吉川弘文館、2007年)
大橋幸泰 他編『〈江戸〉の人と身分』全6巻(吉川弘文館、2010-11年)
大橋幸泰『近世日本邪正論 江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏』(勉誠社、2024年)
牧原成征編『日本史の現在4 近世』(山川出版社、2024年)

【付記】

- ・明日までに、Waseda Moodleにて講義記録の提出を求める。
- ・小レポート提出期限 2026年1月15日／小レポートを提出した者が試験(1月23日)の受験資格を有する。